

報道関係者各位  
PRESS RELEASE

2023年5月25日

*Viva Humanity!*  
Tanuma Takeyoshi

# 「田沼武能 人間讃歌」

2023年6月2日(金)－7月30日(日) 東京都写真美術館 地下1階展示室



《家族全員でトラクターに乗って、チリ、サンチャゴ郊外》1976年 田沼武能写真事務所蔵

TOP MUSEUM

東京都写真美術館  
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

## 展示概要

ヒューマニスティックなまなざしで70年以上写真を通して人間のドラマを描き続けてきた日本写真界の巨匠、田沼武能の傑作を展示！

田沼武能は、東京写真工業専門学校(現・東京工芸大学)卒業後、写真家・木村伊兵衛に師事し、『芸術新潮』の嘱託写真家として芸術家や文化人を撮影、その後はタイム・ライフ社の契約写真家となるなど、フォトジャーナリズムの世界で華々しい活躍を展開しました。1972年からはライフワークとして世界の子供たちを撮影、黒柳徹子ユニセフ親善大使の各国訪問に私費で同行取材を行い、生涯で130を超える国と地域に足を運びました。

田沼は国内外で精力的な取材活動を展開し、自身の作品を発表し続け、その旺盛な好奇心と行動力は生涯衰えることはありませんでした。その一方で、母校・東京工芸大学で後進の指導にあたり、日本写真家協会会長、日本写真著作権協会会長、日本写真保存センター代表など写真界の要職を歴任しながら、わが国の写真文化の普及啓発、写真の著作権保護にも力を注ぐなど、大きな役割を果たしました。本展では未発表最新作「武蔵野」を初公開するとともに、ヒューマニスティックなまなざしで人間のドラマを描き続けてきた田沼の70年を超える写真家としての軌跡を辿ります。



《聖母巡礼の祝祭に夜を徹して踊りあかす人びと、スペイン、アンドゥハル》1975年 田沼武能写真事務所蔵

## 作家プロフィール

田沼 武能(たぬま・たけよし)

1929年、東京・浅草生まれ(2022年6月1日没)。1949年にサン・ニュース・フォトスに入社後木村伊兵衛に師事。1966年、アメリカのタイム・ライフ社と契約。ライフワークとして世界の子供たち、人間のドラマ、武蔵野や文士・芸術家の肖像を撮り続けた。1995年から2015年まで日本写真家協会会長を務める。同年、東京工芸大学教授に就任(2004年より名誉教授)。1979年モービル児童文学賞、1985年菊池寛賞などを受賞。1990年紫綬褒章、2002年勲三等瑞宝章を受章、2003年文化功労者に表彰され、2019年に写真家初の文化勲章を受章。2020年朝日賞特別賞を受賞。



撮影：橋本 英男

## 本展の見どころ

1. 逝去後初となる回顧展！205点の傑作を一挙展示
2. 3章構成で辿る、70年以上にわたる写真家人生の軌跡
3. 「武蔵野」シリーズより、未発表作品を初公開！

## TOPICKS 1

### 逝去後、初となる回顧展！205点の傑作を一挙展示

田沼武能は1929年に東京、浅草の写真館の子として生まれました。2022年6月に93歳で急逝するまで、70年あまり写真家として活躍し、日本写真界に多大なる功績を残しました。本展は、田沼の逝去後初めて開催する回顧展です。

## TOPICKS 2

### 3章構成で辿る、70年以上にわたる写真家人生の軌跡



《木場の丹下左膳、深川木場》1956年 東京都写真美術館蔵

### 第1章「戦後の子供たち」

自身も思春期を戦時下で過ごし、東京大空襲で凄惨な経験をした若き日の田沼は、生まれ育った下町で終戦後の東京で生きる子供たちの姿を活写しました。田沼は、著書(※)の中で「子供は地球の鏡であり、歴史の鏡であり、時代の鏡である」という考え方を示しています。戦後の荒廃した日本で強く、たくましく生きる子供たちの姿とそのまなざしは、観るものを魅了する力強い生命力を感じさせます。

第1章「戦後の子供たち」では、生き生きとした子供たちの姿と、彼らが映す今は失われた昭和の日本の姿を63点の作品を通して伝えます。※『田沼武能写真集 戦後の子供たち』(新潮社、1995年)より



《紙芝居はいつも次の日の展開が楽しみだ、佃島》1955年 東京都写真美術館蔵



《神輿をかつぐ少女たち、浅草》1955年 東京都写真美術館蔵



《板に書かれたコーランで勉強、モーリタニア》1997年 田沼武能写真事務所蔵

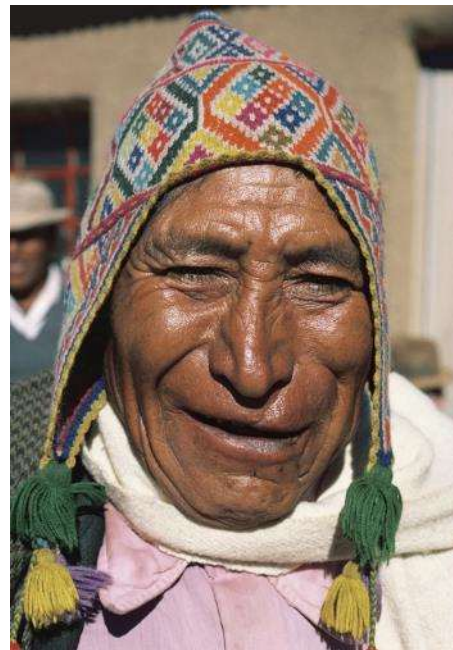
## 第2章「人間万歳」

何よりも人間の「生きる姿」に興味を持った田沼は、生涯のライフワークとして世界の子供たちをはじめ、世界の人々の写真を撮影することに注力しました。1975年以降は発展途上国の子供たちにも目を向け、1984年からは黒柳徹子ユニセフ親善大使の緊急援助国訪問に毎年自費で同行取材を行いました。この同行取材は、新型コロナウイルス感染症拡大により海外渡航が制限される前年の2019年まで、35年にわたり継続され、田沼は実に130を超える国々を訪問しました。

第2章では、85点の作品を通して、田沼を魅了してやまなかった世界の子供たち、世界の人々のまなざしに触れます。



《子どもロデオ大会に出場する少女、アメリカ、デ  
ンバー》1976年 田沼武能写真事務所蔵



《コカの葉をかむインディオの男、ペルー、プーノ地  
方》1978年 田沼武能写真事務所蔵

## TOPICKS 3 「武蔵野」シリーズより、未発表作品を初公開！



《鳳凰の舞、西多摩郡日の出町平井、春日神社》2016年9月 田沼武能写真事務所蔵

### 第3章「ふるさと 武蔵野」

田沼は、多忙な海外取材の合間をぬって「武蔵野の自然」の撮影に取り組みました。戦後の高度経済成長の陰で急速に姿を変えようとしていた日本の原風景に目を凝らし、あらゆる季節の「武蔵野」の姿を生涯追い続けました。東京の下町に育った田沼にとって、「武蔵野」に残る雑木林や野鳥の遊ぶ池、寺社などの姿が心象風景としての「ふるさと」のイメージそのものだったのです。

田沼が撮影し続けた「武蔵野」シリーズより、本邦初公開となる未発表作品を含む57点を展示します。



《若宮橋の川遊び、坂戸市厚川》2015年7月 田沼武能写真事務所蔵



《元旦の多摩川河畔、昭島市》2022年1月 田沼武能写真事務所蔵

## 広報用画像



①《木場の丹下左膳、深川木場》1956年 東京都写真美術館蔵



②《紙芝居はいつも次の日の展開が楽しみだ、佃島》1955年 東京都写真美術館蔵



③《神輿をかつぐ少女たち、浅草》1955年 東京都写真美術館蔵



④《家族全員でトラクターに乗って、チリ、サンチャゴ郊外》1976年 田沼武能写真事務所蔵



⑤《聖母巡礼の祝祭に夜を徹して踊りあかす人びと、スペイン、アンドゥハル》1975年 田沼武能写真事務所蔵



⑥《板に書かれたコーランで勉強、モーリタニア》1997年 田沼武能写真事務所蔵



⑦《子どもロデオ大会に出場する少女、アメリカ、デンバー》1976年 田沼武能写真事務所蔵



⑧《コカの葉をかむインディオの男、ペルー、プーノ地方》1978年 田沼武能写真事務所蔵



⑨《鳳凰の舞、西多摩郡日の出町平井、春日神社》2016年9月 田沼武能写真事務所蔵



⑩《若宮橋の川遊び、坂戸市厚川》2015年7月 田沼武能写真事務所蔵



⑪《元旦の多摩川河畔、昭島市》2022年1月 田沼武能写真事務所蔵

本リリース内で使用している広報画像のデータをご用意しています。

### ■ 画像申請フォーム:

<https://tayori.com/f/vivahumanity/> より申請ください。または、

### ■ 画像申請メール:

①ご所属②貴媒体名③掲載予定時期④希望画像を記載のうえ、  
[vivahumanity-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:vivahumanity-pr@kyodo-pr.co.jp) プレス担当(田中)までご連絡ください。

\* 本展覧会告知以外での図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

\* キャプションを必ず掲載してください。



⑫ 撮影:橋本 英男

## 開催概要

- 名称 | 田沼武能 人間讃歌
- 会期 | 2023年6月2日(金)～7月30日(日)
- 時間 | 10:00～18:00 (木・金は20:00まで、入館は閉館の30分前まで)
- 会場 | 東京都写真美術館 地下1階展示室
- 休館 | 毎週月曜日 ※ただし7月17日(月・祝)は開館、翌7月18日(火)休館
- 料金 | 一般 700円／学生 560円／中高生・65歳以上 350円

※小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)、年間パスポートご提示者は無料 ※オンラインによる日時指定予約を推奨

- 主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、朝日新聞社
- 特別協賛 | キヤノンマーケティングジャパン(株)、東京工芸大学
- 協賛 | 東京都写真美術館支援会員
- 協力 | (公社)日本写真家協会、(公社)日本写真協会、全日本写真連盟、(一社)日本写真著作権協会
- 公式HP | <https://topmuseum.jp/contents/exhibition/index-4532.html>

展覧会担当 | 関次和子、石田哲朗(東京都写真美術館 学芸員)

● 7月8日(土)14:00～ 東京都写真美術館ホールにて、講演会を開催予定です[講師:熊谷博人(装丁家)、多田亜生(編集者)、田沼敦子(田沼武能夫人)]。最新情報は東京都写真美術館ホームページをご参照ください。

## 本リリース・取材に関する お問い合わせ

「田沼武能 人間讃歌」プレス担当(共同ピーアール株式会社): 田中  
TEL:080-8866-6183 / E-mail:[vivahumanity-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:vivahumanity-pr@kyodo-pr.co.jp)

※広報画像のダウンロードは以下の申請フォームをご利用いただくとスムーズです。  
<https://tayori.com/f/vivahumanity/>

東京都写真美術館  
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062  
東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
TEL:03-3280-0099 / FAX:03-3280-0033

本展は諸般の事情により内容を変更する場合があります。最新情報は美術館ホームページをご確認ください。